

明るい新しい漆工芸をめざして

明石朴景展



「漆屏風 茜さす」(昭和49年)

1992年3月13日(金)▶3月29日(日)

開館/午前9時～午後5時<入室は午後4時30分まで>(初日は午前10時より開展、毎週金曜日は午後7時まで)月曜日は休館日

高松市美術館 高松市紺屋町10-4 ☎(0878)23-1711

入場料/一般500円 高・大生300円 小・中生100円 前売り・団体20名以上は2割引

主催/高松市美術館・四国新聞社・西日本放送



「蒔繪 水仙華紋 篋」(昭和22年)

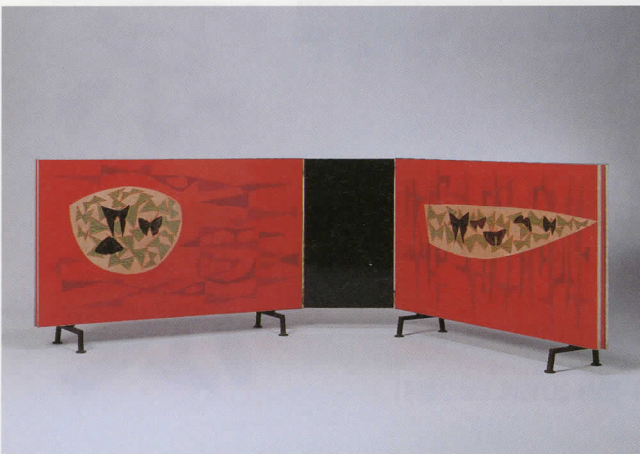
明石朴景は明治四十四年高松市新通町(現末広町)に生まれました。香川県立工芸学校で磯井如真のもとに漆工技法を修め、東京美術学校図案科卒業後は和歌山県漆器試験場に勤務、漆器デザイナーの指導と技術の研究にあたりました。戦後復員してからは旺盛な作家活動を展開し、昭和二十四年「美しい泉を掘ろう」を合言葉に『うるみ会』を結成して主宰。戦後派の若手工芸家たちを中心に明るい新しい漆工芸をめざして意欲的な研究活動を展開しました。この『うるみ会』は香川のみならず、多くの日展作家を輩出しました。昭和三十三年第一回新日展に「夜を聞くレコードキャビネット」を出品し、特選を受賞。その後現代工芸美術家協会香川会が発足すると昭和四十七年から委員長となり、また香川県美術家協会会長なども歴任しました。郷土作家の重鎮として県下美術工芸界の指導・育成に果たした功績は大きく、昭和四十九年には香川県文化功労者となり、また平成三年には勲五等双光旭日賞を受賞しました。



「樹間群翔」(昭和52年)



「乾漆 春夏の壺」(昭和56年)



「群蝶夢スクリーン」(昭和34年)



「夜を聞くレコードキャビネット」(昭和33年)

講演会 「わたしの歩んだ道」
明石朴景(漆芸家)

3月15日(日) 午後1時30分より
高松市美術館1階講堂にて